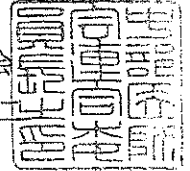


中部医連発第 44 号
令和 6 年 9 月 11 日

中部各県医師会長 様

中部医師会連合委員長
公益社団法人石川県医師会
会長 安田 健



日本医師会「診療所における新興感染症対策研修検討委員会（プロジェクト）」
における委員の推薦について（依頼）

時下 ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、標記の件につきまして、日本医師会長より別添のとおり依頼がございましたのでご連絡申し上げます。

つきましては、貴会の要望について予めご報告いただきたく、ご多用のところ大変恐れ入りますが、日本医師会への回答期限の都合により、9月19日（木）までに別紙によりご回答くださいますようお願い申し上げます。

なお、本年度の委員会の任期は、令和7年度の日本医師会代議員会（2026年6月末頃）までの約2年間の予定です。

また、ご参考として、本年6月26日の日本医師会定例記者会見での本委員会報告書提出についての記事リンクをお知らせいたします。

<https://www.med.or.jp/nichiionline/article/011805.html>

<委員推薦にかかるスケジュール>

- ・ 9月19日（木） 石川県医師会へ要望についての報告締切
- ・ 9月20日（金） 委員の所属医師会の決定
- ・ 9月25日（火） 石川県医師会へ推薦委員の報告締切
- ・ 9月26日（木） 石川県医師会から日本医師会へ推薦

3870



日医発第 1023 号 (地域)

令和 6 年 9 月 1 日

中部ブロック当番県医師会

石川県医師会会長

安田 健二 殿

公益社団法人 日本医師会会長

松本吉郎

(公印省略)

日本医師会「診療所における新興感染症対策研修検討委員会 (プロジェクト)」における
委員ブロック推薦について

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

貴会におかれましては、平素より本会の会務遂行に際して、種々ご高配賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本会では昨年度より、診療所の新興感染症への対応力を一層高める取り組みの一環として、「診療所を対象とした新興感染症対策研修 (以下、「本研修」)」を開催し、本研修を企画及び実践するために「診療所における新興感染症対策研修検討プロジェクト委員会 (以下、本委員会)」を設置いたしました。

今年度も、本委員会を設置し、本研修プログラムや実施方法等の検討を行う予定としております。つきましては、貴会当番県でございます、中部ブロックより、委員 1 名のご推薦を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

お忙しいところ大変恐れ入りますが、9 月 27 日 (金) までに日本医師会地域医療課宛にご回報くださいますようお願い申し上げます。

ご連絡先

日本医師会地域医療課 (担当: 青木、恩田)

〒113-8621 東京都文京区本駒込 2-28-16

TEL 03-3942-6137 FAX 03-3946-2140

E-Mail chiiki_1@po.med.or.jp



(別紙)

令和6年9月 日

中部医師会連合 御中
(石川県医師会総務課)

FAX:076-239-3810

E-mail:ishikai-soumu@ishikawa.med.or.jp

医師会

「診療所における新興感染症対策研修検討委員会（プロジェクト）」委員

(中部ブロック) 要望

いずれかに○印を付け、9月19日(木)までにご回答ください。

() 要望する

() 要望しない

診療所における新興感染症対策研修検討委員会(プロジェクト)答申について

釜淵敏副会長

756

印刷

釜淵敏副会長は6月26日の定例記者会見で、「診療所における新興感染症対策研修検討委員会(プロジェクト)」が報告書を取りまとめ、去る6月11日に館田一博委員長より松本吉郎会長に提出されたことを報告した。

同報告書は、会長諮問「診療所を対象とした新興感染症対策研修の企画及び実践について」について検討した結果、取りまとめられたもので、3月24日に日本医師会会館で開催された「診療所における新興感染症対策研修」の内容等について触れられている。

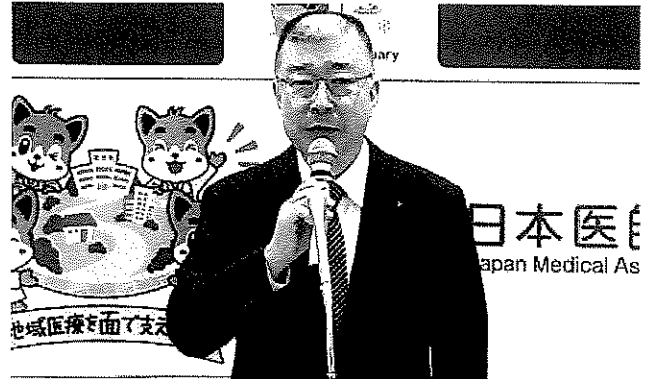
会見の冒頭、釜淵副会長は多くの国民が、全ての医療機関が感染症に対して可能な限り準備を整え、新興感染症発生時には、それぞれの医療機関が機能に応じて最大限の役割を担うことを期待していると指摘した。その上で、特に診療所については、対応能力を高める努力を継続的に行う必要があるとし、アップデートされた感染症対策能力を維持してもらうために研修を実施したことに関及。また、本研修は、各地域で研修を実施する指導的立場の先生を対象とし、各地で研修を企画・実施する際に必要な知識・知見・技術を身に付けることを目的としたものであることを報告した。

研修の内容については、事前にe-learningで新興感染症概論等について学び、研修当日は、(1)手指衛生、(2)PPEの着脱、(3)検体の採取、(4)ゾーニング—実習を行ったとし、特に(4)については、具体的な図面を用いた診療所におけるゾーニングを学び、どの場所にどのような対応を取れば最適なゾーニングとなるかディスカッションを交わし、非常に有用であったとした。

また、十分な広さを確保できないことが多い診療所については、診察時間を分けることによるゾーニングが有効であるとした上で、これから開設を予定している診療所については、あらかじめ感染対策をしやすい導線を考える等の対応を取ることが必要との認識を示した。

更に、同副会長は、研修終了後、委員会を開催して事後検証を行い、受講者アンケートを基に課題の抽出と改善方策に関する検討を行ったことを紹介するとともに、アンケートについては、各地域で研修を企画・運営する上で大変参考になるものであることから、情報を集約、委員会の見解等コメントを添えた上で、講師・受講者・都道府県医師会に共有したことを報告した。

◆会見動画はこちらから(公益社団法人 日本医師会公式YouTubeチャンネル)



関連資料

答申

問い合わせ先

日本医師会地域医療課 TEL : 03-3946-2121 (代)

関連キーワードから検索

プレスリリース 委員会答申 「日医君」だより 映像ニュース

関連記事

H P Vワクチンキャッチアップ接種推進に向けて

「JMA Journal」が初めてのジャーナル・インパクトファクターを取得

令和7年度医療に関する税制要望について

地域に根ざした医師会活動プロジェクト第3回シンポジウムの開催について

医師偏在に対する日本医師会の考え方について